



会長挨拶

湯河原ロータリークラブ

会長 高杉 尚 男

本日ここに、湯河原ロータリークラブ45周年記念式典を開催するにあたり、国際ロータリー第2780地区、西田隆ガバナーを始め、先程ご紹介させて頂きました多数のご来賓の方々には、大変お忙しい中をご臨席を賜り、このような盛大な式典を開催することが出来ましたことを、心より厚く御礼申し上げます。

湯河原ロータリークラブは、45年前に小田原ロータリークラブをスポンサーに、24名のチャーターメンバーに依って創立されたわけですが、45周年を迎えるに当たり、実は昨年度より記念行事をどのように取り行うか、時節柄クラブの現状や諸般の事情を考慮し、会員だけのささやかな記念例会を開催すれば良いのではないかとこのところから、45周年の事業についての協議がスタート致しました。

そして、記念事業につきましては平成17年の秋に単年度事業が主体のロータリー活動にあって、前年度の役員各位のご努力のお陰を持ちまして、45周年事業の前倒しになりますが、奥湯河原の池峰の地に「もみじの郷」が一般公開されるのに併せ、もみじの植樹が企画されました。

本日は米岡町長・向笠県会議員もお見えですが、私達のクラブは温泉観光地としての環境美化に取り組み、永年に渡り「社会奉仕活

動」の一環として、植樹や下草刈り等を行い緑化活動を推進してまいりましたので、もみじ30本を湯河原小学校の生徒達と植樹させて頂き、私達クラブのお家芸とも言うべき樹木の植樹を、記念事業に致すべく実施致しました。

そして記念式典につきましては、実行委員会の打ち合せが重なるにつれ、やはり諸先輩達が永年に渡って築き上げてきた歴史と、5年毎の節目として行って来た伝統を継承しなければとの気運が盛り上がり、併せて新たに記念事業に後ほど発表されます、もう一つの企画を加え、今日の日を迎えた次第です。

さて、私達のクラブにとって45周年は一つの通過点です。創立時より1名増の25名の、ロータリーバッチの歯車の数より、僅か1つ多い会員数の、県西地区の小さなクラブではありますが、親睦を熟成させながら規律を守り、調和の取れた居心地の良いクラブライフを目指すと共に、会員相互がロータリーの友情を大切にしながら、善意の輪を広げ、奉仕の理想に向かって更なる希望を胸に、未来へ歩んで行きたいと思っております。

ここに改めて、ご臨席の皆様方には、一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。有り難うございました。



祝 辞

2005 国際ロータリー第2780地区

ガバナー 西 田 隆

(座間中央R.C.)

湯河原ロータリークラブ創立45周年記念式典が、この様に賑々しく開催されますことを心からお慶び申し上げます。

半世紀に近い歴史を持つ湯河原ロータリークラブは、毎周年事業に各種植樹を行うなど着実に地域社会に親しむ活動を行い、かつて意義ある業績賞も受賞されている模範的なクラブであると、私は認識しております。

この様にお話をしておりますと、いろいろな思い出がよみがえってまいります。特に、見習うべき人柄を持った湯河原ロータリークラブの分区代理経験者の方々のごことです。人生を達観されていると思える天野屋の天野様、私がクラブ幹事のときの分区代理岩井様、温なお人柄の方でした。時々みかんをお送りいただきました。ご好意をいただいたのが昨日のことのようです。

お二方とも彼岸の方となりました。しかし、今日でもその心は湯河原ロータリークラブの伝統と品格として受け継がれていると思います。

ロータリーは精神運動です。「心の状態を

高める運動」です。ロータリーが目指す社会改良は、おそれたものではなく、地道に「人の振り見て我が振りなおす」という自己改善を遂げるところから始まります。心を高め、思いやりの心を持って周囲の人々に接する。これがロータリー運動の実践です。ロータリーの真髄「利己と利他との調和」実践になります。

湯河原ロータリークラブの良き伝統を継承し、次の50周年、60周年に向けて更なるご発展と会員皆様のご健勝を念じまして、お祝いの言葉に代えさせていただきます。

本日はおめでとうございます。



ご祝辞

パストガバナー 生 沼 富 治

湯河原クラブの皆様、本日はおめでとうございます。謹んでお祝いを申し上げます。

顧りみますと、貴クラブさんには常日頃からご厚誼を頂いてまいりましたが、お伺いする度に、しっとりとした和かな空気の中に格調高いロータリーが隅々にまで行き届いていることに感動を覚えておりました。

「意義ある業績賞」にしても、日常のロータリー生活の中で続けて来られた「地域に根差した奉仕」への感動が具現されたものと理解しております。

改めて創始者、天野先輩の偉大さと、歴代の会長さんを中心に、「創始の精神」を引き継いで来られた会員諸兄に心から敬意を表したいと存じております。

実は私自身も天野先輩と幸運な出会いに恵まれた一人と自認しておる次第です。

昭和41年4月6日、小田原北クラブ創立の日に、神奈川第3分区代理としてご臨席の天野様が、ロータリアンになったばかりの私にかけて下さった優しい言葉を忘れることはできません。以来数々のご教示を戴いてまいりましたが、その中でも、「ロータリ

ーは決して難しいものではありません。何よりも会員同志が仲良くなることです。その中から真の奉仕が生まれるのです」と。皆様よくご承知と存じますが、私もまことに、簡にして至言と心にとめております。

ここで皆様ご存知の安野謙次氏（一の宮R.C.）の説かれる「春の雨」の中から一節を、「ロータリーの奉仕は春雨の如く、静かに明るく人知れず大地を潤し、この世を美しく、そして住みよくするものであると信じます」と。好きな言葉です。

国際派PG（1964ガバナー）として極めて著名な方と伺っておりますが、晩年を小田原で過ごされたことも考えますと、或は天野先輩もご親交があって、私以上に「春雨」の“静かな目立たない奉仕”に共感を覚えて居られたのではとお察し申し上げて居る次第です。

どうか湯河原クラブの皆様には、今後とも“春雨”のようにしっとり湯河原の街並を潤しながら、栄ある50周年の日をお迎えなさいますように、益々のご発展とご健勝をご祈念申し上げ、ご祝辞といたします。



湯河原ロータリークラブ 創立45周年記念に寄せて

2006～07年度第2780地区

ガバナー補佐 廣 崎 充 紀

(平塚北R.C.)

湯河原ロータリークラブの皆様並びにスポンサークラブ小田原ロータリークラブ、第九グループ関係者一同の皆様、本日は創立45周年おめでとうございます。

昭和37年4月20日創立以来風光明媚なこの地で産声を上げ、ロータリーの基本理念の理解増進を計られると共に、観光と温泉の湯河原町に根付き発展に寄与されましたことは、会員皆様の並々ならぬご苦労と努力に深甚より感謝申し上げます。

今年度国際ロータリーのウィリアムB、ボイド会長はさらなる成功に向けて「率先しよう」のテーマを掲げ、実践していきましょう。と問いかけています。貴クラブは45年の長きに亘り「超我の奉仕」を率先し続けた結果今日の佳き日を迎えることが出来たことと思います。

自我を抑制し利他の心を育む崇高なロータリー精神の実践行動は、奉仕を必要とする方々に大きな感動を与えることができます。奉仕をさせて頂く者もまた感動を受け更なる奉仕の芽が大きく成長いたします。今日は貴クラブが更に50周年、100周年に向けて大きく羽ばたく事を誓う宴であります。

お釈迦様に「人間は何のために生きるのか」と問いたらお釈迦様は、生きていく人間にとって一番大事なことは、利他の心であると説きました。この利他の心の対極にあるのが利己の心です。人はそれぞれに運命というものを背負ってこの世に生を受ける。人様に親切にしてあげる。そういう美しい

思いやりの心を持つことが、自己の運命を良い方向に導く為に大切なことです。善に思い、善き行動が運命を好転させる。お釈迦さまは世のため人のために尽くして生きる、とお答えになられたそうです。

私は小さい頃、祖母が言い続けた言葉がいまだに脳裏から消え去らないことがあります。

「一寸の虫にも五分の魂」がある、人間が自分の都合で殺してはいけない。虫にも人間にも意味があるから生き生かされている。繰り返し繰り返し聞かされた言葉でありました。小学校の低学年の頃、学校の帰り道小川のほとりに小さな捨て猫が泣いていました。誰かが石を投げ始め、そのうち皆で投げやがてその猫が死んでしまいました。それから20年以上たったある日、突然脳裏に祖母の教えが蘇り、以来背いた行為が脳裏から離れることがありません。再び犯さない為に我が子に生き物全てに自分の都合で間に合う間に合わない判断をしてはいけない、と教え続けてきました。

ロータリーの精神と言葉こそ違え、ロータリーがお釈迦様の教えと同様のことを忠実に理解され、且つ100年余の長き繁栄をもたらし、発展を遂げようとする精神は、間違いない道であります。

私達が共に手を携えお互いに協力を惜しまず、小賢しい考えに陥らず末永く正道を歩み続けることが大切です。

これからもロータリー精神の高揚を計られ、崇高な精神の湯河原ロータリークラブであり続けられますよう心から祈念申し上げます。



祝 辞

小田原ロータリークラブ
会 長 今 井 恭 一

湯河原ロータリークラブ創立45周年、誠に
おめでとうございます。心よりお慶び申し上
げます。1962年4月20日の創立以来45年の長
きに亘り多くの事業活動を行い地域社会の発
展に貢献されたチャータメンバーをはじめ歴
代の会員の皆様のご努力に敬意を表す次第で
ございます。

さて、45年の歴史とは大変な重みのあるこ
とでございます。これはある日突然出来上が
ったのではなく、45年間の1年1年の積み重ね
が現在の湯河原ロータリークラブの存在とな
っていると思います。そこには毎年実施して
いるクラブ、地域社会、職場、国際社会への
奉仕活動が大きく貢献しております。

過去の記念誌を読ませていただきました。
その中から少し例を挙げてみますと、創立10
周年記念事業の「城山の植樹」で意義ある業
績賞を受賞され、現在でも毎年下草刈りを実
施していると伺っております。周年には必ず
記念事業を実施し、青少年交換学生のスポ
ンサークラブとしての受け入れや、GSEの受
け入れ、湯河原南ロータリークラブ創立のス

ポンサークラブなど、例を挙げると枚挙に暇
がございません。

私は今年度小田原ロータリークラブの会員
に元国際ロータリー会長ハロルド・トーマス
の「ロータリーモザイク」を紹介してきまし
た。その中にポール・ハリスの次の言葉が載
っております。「ロータリーは一人の人間の
靈感によって生まれたものでもなければ何人
かの人達の靈感によって出来たものでもない。
ロータリアンすべての参加によって出来たも
のである」。まさに湯河原ロータリークラブの
45周年歴代一人一人のロータリアンがそれぞ
れ種々雑多な寄与貢献を捧げた結果の積み重
ねであり、「ロータリーのモザイク」と呼ぶ
に当を得たものであると思います。

湯河原ロータリークラブの今後ますますの
ご発展と、会員皆様の企業のご繁栄とご健勝
を祈念いたしましてお祝いの挨拶とさせてい
たいただきます。